

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (ものづくり×アジアコース)		訪問国	シンガポール	
学校名	静岡県立科学技術高等学校	氏名	山本ひより	学年	2年

1 目的・応募理由

水不足が深刻化したシンガポールでの現状とそれに対する取り組みを自分の目で見て確かめたい！先進国でありながら水不足という大きな問題に直面しているシンガポールに行きそこでしか学ぶことが出来ないインフラの施設や政府の取り組みを学びたい！都市デザインとインフラのつながりを追求したい！と強く思いトビタテ留学 JAPAN に応募しました。私は今、科学技術高校の都市基盤工学科でインフラや街づくりについて学んでいます。インフラについて興味を持ったのは能登半島地震の報道がきっかけです。進路に悩んでいた時、能登半島の被害を見てインフラの大切さを感じ、科学技術高校に入学してインフラについて学び、将来災害に強いインフラを手掛けたい！と強く思いました。入学後、水道に関する勉強をしていた時、シンガポールが深刻な水不足に陥っていると知りました。調べてみると下水の再生や、海水の淡水化などに力を入れ取り組んでいるとわかり強い興味を持ちました。そこでシンガポールに行ってインフラについて、それに関わる都市デザインについて学びたいと思いました。



2 研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

午前中は語学学校にて学習、午後の時間を使って NEWater Visitor Centre 等の大規模下水処理再生工場やインフラの歴史を学ぶことができる政府のギャラリーを見学し、日本でも生かすことができないか考え、インフラの知識を深めました。今回の留学では、探究活動として「なぜシンガポールは水不足の国なのに、水をたくさん使った建物が多いのか」という問いをテーマにしました。なので、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイに行き都市デザインとインフラについても見学しに行きました。また土日にはシンガポールで知り合った方とバスでマレーシアにも行きました。実際にマレーシアからの輸入水を送るパイプを見学しに行きまし



た。パスポートさえあれば日帰りで行ける距離にあり、国境を越えることの身近さにも驚きました。私が行ったジョホールバルという街は、治安やインフラ設備の面でシンガポールとは大きな差があり、その違いを実際に目で見て感じることで、同じ東南アジアでも国によって環境が大きく違うことを実感しました。

私はホームステイではなく、相部屋に滞在しました。交流を大切に、英語でコミュニケーションを取ったり日本のお菓子を配ったりしました。とても喜んでもらえました。語学学校の最終日にはトラディショナルパーティーを開催しました。クラスメイトや先生たちと自分の国のお菓子やご飯を持ち寄ったり伝統衣装などを着たりして、お互いの文化を伝え合う活動を行いました。いろいろな国の食文化や聞いたこともない文化もありその国のイメージが変わり価値観が大きく変わりました。

3 感想等

留学して一番よかったと感じたことは、いろいろな国の人と話すことができたことです。多文化国家ということもあり、差別が少なく、フレンドリーな方がとても多かったです。そのおかげで、自分から積極的に話しかけることができました。英語がうまく通じず、言葉に詰まってしまう場面もありましたが、相手は表情やジェスチャーを使って理解しようとしてくれました。その経験から、完璧な英語でなくても、「伝えたい」という気持ちがあればコミュニケーションは成り立つと実感しました。

不便に感じることもたくさんありましたが、日本では感じない不便さだからこそ新鮮で、逆に楽しいと感じることも多かったです。そして、日本で当たり前だと思っていた生活のありがたみを改めて感じることができました。

